

平成 21 年 3 月 24 日

平成 20 年度卒業論文優秀賞の選定結果と講評

大阪市立大学工学部建築学科

選定委員：藤本益美(委員長)、吉中 進、谷口徹郎、大倉良司、鈴木広隆、宮本佳明

1. はじめに

卒業論文表彰制度ができて今回で 13 回目を迎えることとなりました。1995 年の表彰制度発足時に掲げた『建築学教育の集大成としての卒業論文の教育効果を高める』という主旨に従い、本年も昨年に引き続き、原則 1 論文を卒業論文優秀賞に選定しました。選定するに当たり、卒業論文の完成度が、分野や基礎研究、萌芽的研究あるいは応用研究によって異なることから、評価のポイントは、梗概、プレゼンテーション、質疑応答に焦点を絞っており、内容がいかにより優れた論文であっても、プレゼンテーションや質疑応答が不十分であれば、論文優秀賞候補に挙げられないことを付記します。

2. 選定経緯

本年度の提出論文は、26 編であり、2 月 24 日の卒業論文発表会終了後直ちに、卒業論文優秀賞選定委員会を開催しました。平成 20 年度卒業論文優秀賞選定方法に従い、卒業論文優秀賞を選定しました。選定方法は、『卒業論文優秀賞は教員による投票によって決定する。卒業論文梗概と口頭発表ならびに質疑応答より、各教員が優れていると判断した卒業論文 3 編を専門領域に関係なく投票する。投票の結果、得票数の最も多いものを卒業論文優秀賞とする。最高得票論文が複数の場合は、それらの中から選定委員の議論により決定する。』と規定されています。教員の投票結果を次表に示します。投票結果を受けて、委員会で審議の結果、宮脇和紀君が卒業論文優秀賞に決まりました。

表 1 平成 19 年度卒業論文優秀賞投票結果

	今村	岩川	海妻	北村	鬼辻	桜井	洲崎	武智	寺垣内	内藤	費川	髭	松浦	宮脇	森永	山下
計	1	4	2	4	1	1	2	4	1	1	1	2	1	5	2	4

投票結果によると、少なくとも一票が投じられている論文は、16 編でありました。印象に残った論文が多かったことの顕れと思われます。これら 16 編の中で、最多得票 5 を集めたのは、宮脇和紀君の論文でした。質疑応答、論文概要に加えて、テーマの新規性に優れていました。宮脇君につづいて多くの得票を得たのは、4 票の岩川晋也君、北村圭亮君、武智浩二君、山下穂高君でありました。これまでに挙げた 5 人以外にもプレゼンテーション、内容に優れた論文もありました。各論文に寄せられた選定理由ならびに発表に対するコメントを表 2 に紹介します。真摯に取り組んだ卒業研究の良さを聞き手に伝えるのは、発表者の義務と権利であることを認識してほしいものです。

3. 卒業論文の講評

ここで、卒業論文優秀賞に選定された宮脇和紀君の論文講評を紹介します。

卒業論文優秀賞 宮脇 和紀「フルグラス・ブリッジの最適形状と接合部に関する研究」

本論文は、ガラスのもつ透明性が高い外観上の特徴と圧縮強度が高い力学的な特徴をうまく活かした、アーチ形状の手すりと床版で構成されるスパン 3 4 m の新しいフルグラス・ブリッジ構造システムの提案に関するものである。内容は学生自らの発案による。論文の前半では、手すりと床版の配置と境界条件を設計パラメータとして、最大変位と最大応力が小さい組み合わせを数値解析により求めて最適形状と定義した。後半では、

最適形状モデルにおいて高力ボルト接合を用いた場合の設計法を提案し、提案したフルグラス構造システムが想定した荷重に対して十分成立可能であることを証明している。学術論文としては多少詰めの甘い点が見受けられるが、柔軟な思考により、今までにないガラスの構造材としての使い方を提案した意義は大きく、今後の発展が大いに期待できる。さらに労苦を厭わず自ら積極的に研究に取り組む姿勢は、卒業研究に取り組む際の模範となるものである。(文責 吉中進)

惜しくも次点となった岩川晋也君、北村圭亮君、武智浩二君、山下穂高君の論文タイトルを紹介します。

岩川晋也「公営住宅における外構利用の傾向と住民自身による住環境の形成について

—大阪市営住宅を対象として—」

北村圭亮「職と住の関係からみる職住一体店舗のあり方 —黒門市場商店街を対象として—」

武智浩二「ウォータースクリーンの拡散反射性能に関する研究」

山下穂高「大学の学生居室における冷房設定温度と室温および熱的快適性に関する研究」

表 2 選定理由コメント

今村謙人	建築におけるモノの生え方(生殖学)の研究。部屋という概念にとらわれない作家住宅を対象としたことが、正解。
北村圭亮	積極的な姿勢、データ分析を工夫しており分かりやすかった。質疑応答の対応もよかった。
鬼辻卓也	まとめた範囲内で分かりやすい発表であった。
洲崎 海	駐車という通常ではネガティブに捉えられがちな行為を一種の「技術」と位置づけることで、「美しい」駐車のあり方を探る独創的研究。パーキングアート
武智浩二	積極的に研究に取り組む姿勢が伺えた。プレゼンも分かりやすく質疑応答もきちんと対応していた。ショー的要素が感じられるが、時間内でのプレゼンで声もよく通り、将来の進展が待たれる論文である。
費川 雪	地味であるが労作だと感じられた。
髭 貴政	文化財の占有状況を「転用保存」と名づけそこに積極的に景観形成上の価値を見出す点が独創的である。調査も精緻である。
松浦由紀	まとめた範囲内で分かりやすい発表であった。
宮脇和紀	工夫しながら研究に取り組んでいた。テーマに新規性があった。
山下穂高	内容も分かり易く、質疑応答も優れていた。

4. 卒業論文発表に対するコメント

選定理由のコメント以外に、卒業論文発表全般に対する総評を頂いています。コメントは、論文テーマの選び方、研究の進め方、まとめ方に対して、非常に有益であり、表 3 にまとめました。学生諸君は、将来におけるテーマ設定から研究遂行(実験・調査、論文執筆、発表)の際に思い出してください。

表 3 総評コメント

発表技法に対するコメント	プレゼンの中には、準備不足と思われるものが少なくなかった。たとえば、時間内に結論まで行きつかない。プレゼンテーションの文字や図表が分かりにくく、スマートでない。声が小さかったり、早口であったり、説明が不足している。質疑応答が不十分である。
	専門的な内容を他の分野の人にわかりやすく説明する工夫がなされている発表が高い評価を得られると思います。
	卒論で研究した全体と発表との関係が分かりにくいものが多かった。
	相手に理解してもらおうと言うサービス精神が乏しかった。
テーマ選択と研究の進め方	卒論も卒計と同様に大事な自分の作品である。機器との相性、アプリケーションのバージョンの違い、時間配分などでせつかくのプレゼンテーションが台無しにならないように気を配ってほしい。
	アンケート調査による研究が多かったが、母集団の選択など確率論的な見方も必要。事前の発声練習の有無が明白であった。
	引用研究との関係を明示すること。
	そつのない発表だが結論が弱い。もう少し大胆に飛躍があっていいのでは。

以上(文責 藤本益美)